

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	『「のぞみの里」の理念 開設者の想い (5項目)』を持っている。	開業後1年を経過し、多くの職員もなれてきたので、理念を絶えず掲げて活動できるよう、理念の見直しをする。
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	『「のぞみの里」の理念』を持ちつつも、活動の中で絶えず意識して取り組むことは少なかった。なお、5項目のいくつかを行事や日常取り組みで実践しています。	見直しを通して、地域密着活動、より良い行き届いた介護のあり方を追求していく。行事等の企画では理念の実現の立場から、その目標や趣旨に関連付けて取り組みます。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	行事や活動を伝える『のぞみの里ニュース』等で理解を深めていただいている。地域住民から畑を借りて野菜の耕作、ホームの行事材料の提供を受けるなど交流が進んでいる。	利用者や家族に配布する『お知らせ』等でも理念を深めて理解していただくよう配慮する。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	送迎や散歩などで地域の人々と気軽に声をかけて親しく付き合いが少しずつできている。不用物品などの提供も持ちかけられ、協力を頂いている。	地域の行事への参加のほか、小規模な懇親の場なども設けていくようにします。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	毎月の地域交流の行事に取組むとともに、地域の行事に参加しています。地域の夏のバーベキュー大会やしめ縄づくり等の行事への参加、また町内会や老人会に施設として加入し交流している。地域防災協定を結んでいます。	今までの取組を続けるとともに、地域の人も参加して防災訓練を積み重ねていきます。

のぞみの里 グループホーム

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	駐車場を毎月の廃品回収場所として提供したり、生活相談を受けたり、地域講座を開いたりしている。		「木曾福島域協議会」に参加して高齢者の生活向上のため、貢献していく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設を新設し、開業・立ち上げたばかりで、方向性も見失いがちであったり、確信できない部分もありましたが、協議の中で励まされ自信を持って取り組んでいます。		活動の中に「計画・活動・チェック・見直し」の発展的取り組みができるようにしていく。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当施設では、運営推進協議会と呼んでいます。定期的に関き、評価も得ています。会議の状況を職員に報告するとともに、委員の方々には食事や行事にも参加していただき、理解をいただいています。職員への励ましは、サービス向上に反映しています。		運営推進協議会に管理者以外の職員も参加するように工夫していきます。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	老人の一時保護において宿泊を提供することもあります。町の招集する会議や交流会に参加し、サービス向上に努めています。町内の小規模介護関係事業者の集まりに自治体も参加してもらうこともあり、介護現場の実情の理解や行政の方針など相互で連携を取っている。		老人を取り巻く環境・問題点なども協議し、行政の果たす役割を要請するとともに当施設や職員の役割も考えて果たすようにしたい。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見人にどうしたらなるのかの相談も受けて対応したり、人権擁護には努力しています。		すべての人々の人権を守ることの理解の学習を機会あるごとに進めていきます。被介護者・弱者の人権擁護をどうするかも学んでいきます。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は厳に戒めています。入浴などの時、体に異常がないか注意しています。		虐待に進んでしまう要因や背景を明らかにし、虐待をもちこまないで問題解決をするようにしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>関係書類も整備し、十分な説明にも努力しています。</p>	<p>基本契約の見直しを通して、わかりやすい必要事項を含んだ説明の仕方を身につけるようにする。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の苦情や不満を真摯に受け止め、対応している。</p>	<p>『苦情は〇〇にご自由に』などのステッカーを張るなど、気軽に意見がだせるような雰囲気を作ります。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>のぞみの里ニュースを適宜配布しています。個々の様子・金銭管理等は、毎月家族へ『お便り』で様子を伝えるとともに、急ぐ時など電話連絡をしています。</p>	<p>利用者や家族も参加できる『のぞみの里ニュース』などを作るように努力したい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付の体制はありますが、アンケート調査はしたことがありません。口頭で寄せられたり、受止めた家族等の意見は管理者会議で検討して取組んでいます。</p>	<p>時間をかけた家族との懇談も計画していきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員が上司や施設長に質問意見を出すことを奨励するとともに、管理者会議を月2回実施し、会議結果を管理者を通じ、職員に周知している。毎日の打合せもコミュニケーションの場となっています。</p>	<p>目的意識を認識するような意見提案が出されたり、行動結果を次回に活かしていけるまとめなどができるようにしていきたい。</p>

のぞみの里 グループホーム

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17 柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	絶えず変化に対応するように取組んでいます。交代要員の配置や超過勤務なども受止めてもらっています。		『集団で取り組む介護の仕事』の質を高めることが、原則性と柔軟性を持つことができると思うので質向上に努めたい。介護の収入経費の増加を要請し、余裕ある要員の配置を期待したい。
18 職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動等があるときは職員間で情報交換をし、理解を求めスムーズな移行に配慮しています。職員ならだれもが接することが出来るように努めています。		職員は誰でもが利用者から馴染んでいただけるよう努力をしていきたい。
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	基本的な教育計画を定めています。また新任者には経験者を当てて指導補助しています。外部研修の案内等があったとき、また他所での講習等の受講希望者があるときは、可能な限り支援体制を取っています。		教育訓練係を配置して、教育計画に沿って教育訓練を実施する。教育計画の見直しをします。
20 同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開業前の準備段階では、他施設の協力も得ました。交流ネットワークは県内の宅老所連絡会に参加し交流しています。		グループホーム事業者だけでは困難な課題を、同業者との交流を深めて課題に取り組んでいきます。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	事務室が狭かったり、くつろげる場所が十分取れていないため、環境づくりは不十分です。また、病気や疲労が大きくなるようには声かけしています。		3階事務室、更衣室等を使いやすくする。職員間のレクリエーションなども企画していく。



のぞみの里 グループホーム

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	向上心に目を向けるようにしていますが、十分ではありません。研修補助制度を設けています。		さらに研修しやすい制度、雰囲気づくり、財政基盤の確保に取り組みます。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談を受けた職員が理解に努めると共に、ケアマネが中心となり、利用者の声を聞き状況の理解に努めています。		信頼関係の構築に努力していきたい。
24	初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ケアマネが中心となり、信頼関係を築くよう努めています。家族間の同意が得られないことも間々見られ、総合的な理解をするようにしています。		信頼関係の構築に努力していきたい。
25	初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や他事業者のケアマネ等の意見も聞いて必要な支援は何かを見極めながら対応しています。		引き続き見極めながら対応していきたい。
26	馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新しい制度・施設なので、丁寧な説明するとともに、入所前に利用者とは出来るだけ面会等をしてなじむように努めています。		利用者家族が納得できてからサービスを開始していただくようにしていく。

のぞみの里 グループホーム

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>寄り添って理解しあえるように努めています。ことばでのコミュニケーションが困難な方には、みんなの輪に加わっていただくことで、職員も他の利用者も一体感を持つように努めています。</p>		<p>利用者から学ぶ姿勢を大切にして声に耳を傾けて、利用者の胸の内を理解できるよう努めていきたい。</p>
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>共に支えあう関係は十分ではないが、共同して介護する関係に努力している。散策に同行、お茶をたてて提供していただき、ピアノを弾いたりカラオケに参加してくださることもあります。</p>		<p>家族と話し合う機会を作って、家族と共に利用者を支える関係作りに努めたい。</p>
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>家族との共同・協議などはまだ不十分ですが、認知症の理解などに努めており、より良い関係づくりに努めています。</p>		<p>家族会の充実を図りながら、家族と協働してよりよい支援をしていきたい。</p>
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>利用者のなじみの人が引き続いて交流できるよう勧めています。</p>		<p>利用者の気持ちを大切にして馴染みの関係が途切れないように努めていきたい。</p>
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>利用者の有する力や想いを把握し、利用者間において、役割を引き受けてもらい交流が深まるように努めています。</p>		<p>利用者同士の関わり合い支えあえる関係を尊重していきたい。</p>

のぞみの里 グループホーム

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	死亡されての終了が多い。家族が地域交流で来所されたこともあります。入院などで保留状態の方にも連絡などをして関係を保っています。退所後小規模多機能型居宅介護を利用されている方と交流することもあります。		今後も必要とされる場合は関係を断ち切ることなく関わっていきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者、家族に意向を伺うと共に支援状況が変更になった際、職員や必要時家族にも入っていただきカンファレンスを開催して把握している。		日々のかかわりを通して利用者の思いや意向の把握とともに、家族へのアンケートをとって取り組みます。
34	これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際利用者家族に伺い、アセスメントに努めている。入所後も利用者の日常の会話の中からこれまでの暮らしの把握に努めている。		センター方式を利用して生活歴等の把握に努めたい。
35	暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日、個人の記録に一日の様子を記入し、朝夕の申し送りの際一人ひとりの様子を職員間で共有している。		一人ひとりの状態を朝夕の申し送りやカンファレンスで検討しながら支援したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日の申し送りを把握し、利用者の望まれている生活を会話の中から知るように努めている。職員でのカンファレンスを開催している。家族の方にも会議に参加していただき開催した方も数名いますが、全ての家族ではありません。家族にも毎月1回文書にて状況をお伝えする他にも電話等でもお伝えして介護計画を作成している。		必要時、家族に参加していただき会議を開催し、支援について検討したい。

のぞみの里 グループホーム

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月の短期目標ごとに見直しをしている。入院された利用者には医師、理学療法士、栄養士、家族を交えた今後の支援についてカンファレンスを開催して計画を検討させていただいた。		家族に参加していただき会議を開催し、ケアプランについて見直しをしたい。
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録を毎日日誌当番や関わった職員が記録し、申し送りにて共有している。他にも必要な支援を申し送りノートに記入し、その日に出勤していない職員も把握し見直しに活かしている。		毎日の申し送り、カンファレンス、個別記録にてケアプランの見直しを検討したい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望にて家族が来所し外出される方、帰省できない方についても家族や利用者の意向に合わせて支援させていただいています。小規模多機能居宅介護の利用者とも交流する機会を設け事業所全体で支援できるように努めている。		今後も小規模多機能居宅介護の利用者との交流を引き続き行いたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防団員、地域住民、中学生、子育てグループのボランティアの協力をいただいている。運営推進協議会に中学校教員も参加している。		地域資源との協働ができるよう働きかけたい。(料理、法話、傾聴ボランティア等他にも繋がりが持てるよう検討したい。)
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入所以前の担当ケアマネに必要時連絡させていただき現状をお伝えしたり、グループホーム以外の生活について相談することもある。		必要に応じ、連携が図れるようにしたい。



のぞみの里 グループホーム

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センターに集団生活が困難な利用者の相談をし、連携を図り家族、包括保健師も同行していただき、主治医の受診に繋げた事例があります。		必要に応じて連携を図りたい。介護だけでなく老人福祉全体についても共通理解になるように努めます。
43 かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	木曾町の4医療機関と協力医療協定を契約し、緊急時対応をしている。その他の医院でも、かかりつけの医院には適切に対応している。遠方のかかりつけ医については、利用者・家族に了解された場合は協力医院にての受診、そうでないときは、隣町のかかりつけ医院への受診を支援している。		医療機関との連携を図り、利用者が安心して医療が受けられる体制を取っていきたい。
44 認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	月1回の認知症専門医の受診に繋げ、様子をお伝えして相談させていただいている。		引き続き相談に繋がられるように支援したい。
45 看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週2回勤務の看護師に状況を伝えバイタル、排便、食事等の相談を行い、健康管理の支援を施行している。インフルエンザ対策もその指導で策定して対応しました。		健康管理できるよう看護職と相談しながら支援したい。
46 早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	平成20年12月～21年1月に10日間程入院された方の退院に向けて今後の支援について、医師、看護師、理学療法士、栄養士、家族と相談や指導の連携を図り、支援させていただき早期退院となりました。		必要に応じて医療機関との連携を図りたい。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期ケアの支援について医療と連携して必要な支援をさせていただき、医療優先で対応しています。		対象者には支援の検討が必要となります。職員間の方針の共有が出来るよう努めたい。

のぞみの里 グループホーム

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	職員は、重度化していることを踏まえて、体調観察に注意を払って健康管理をすると共に、主治医と連携しています。		ここで出来ることを検討しながら、終末期支援の準備を整えたい。
49 住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在対象になる利用者はみえないが、必要に応じ検討したい。		必要に応じ支援したい。
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50 プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を尊重し、言葉かけにも最善を尽くしている。		継続して一人ひとりのプライバシーを損ねないように言葉かけに気をつけたい。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の尊厳を尊重し、言葉かけにもその日の状況に合わせて支援してます。買い物希望や個別レクの支援をさせていただいたり、誕生日メニューを利用者に伺い、献立を考案しています。また、七夕、書初め、節分等で利用者の願いなどを書いてもらっています。		自己決定については困難な状況もみられることもありますが、希望の表出や自己決定のできる支援について職員間での検討をしたい。

のぞみの里 グループホーム

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52 日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ハーモニカ演奏、歌を好む方、手芸をされる方、ゆっくりお部屋にてテレビ観賞で過ごされる等利用者の希望に合わせて過ごしていただいています。職員からも利用者に添った余暇の過ごし方も検討、提案させていただくこともあります。		一人ひとりの希望に添えるよう努めたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	馴染みの理容店、美容室への支援をさせていただいている。		馴染みの理美容店への支援をさせていただくと共に、おしゃれに関心が持てる提案もしたい。
54 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みや季節に合わせたメニュー、誕生日、季節の行事食、糖尿病の方、減塩の方にも好まれる食事の支援を考えております。調理、片付けも一緒にできるよう支援しています。		食事作り、食器を拭く、片付ける、洗うをそれぞれの状態に合わせて分担しながら職員と一緒に今後もやっていきたい。
55 本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	既往歴に合わせると共に個々の好みを献立に取り入れている。飲酒については、夏祭りの焼肉や、お正月に楽しんでいただきました。		現在は行事に合わせてだが、利用者の希望により楽しみがもてる支援をしたい。
56 気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の状況に合わせて、排泄用品の検討を常時支援させていただいています。排泄コントロールがトイレ誘導にて出来てきている方もあります。		個々の状態に合わせて排泄用品を使用する方、使用しない方、一部介助、誘導、全介助と支援していますが、継続支援したい。

のぞみの里 グループホーム

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴支援を午後施行しています。毎日入浴希望の方にもできる限り支援させていただいていますが、一日おきになってしまうこともあります。入浴がお好きでない方にも気持ちよく入れるように支援しています。炭酸泉も利用することがあります。		入浴時間の見直し、入浴剤の導入検討をします。
58 安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間ゆっくり入眠できるよう寝具のシーツを10日に一度交換。汚染時は直ちに交換しています。天気の良い日は布団を干しています。昼夜逆転にならないように、利用者の昼間の支援を常時検討させていただき、個々に合わせた時間に休んでいただいています。		安眠休息できるよう環境作りの支援を継続する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理、洗濯干し、衣類の片付け、散歩、野菜作り、生け花、掃除等で役割や、趣味等が活かせるよう支援しています。		生活歴、利用者の有する力に合わせて支援したい。
60 お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が金銭管理可能な方には、お金を所持していただき、利用者の必要な物を購入し買い物を楽しめるよう支援しています。		継続支援したい。
61 日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	要望に応じて個人の買い物や散歩等の支援をしています。		個人の買い物支援、散歩、ドライブ等その日に合わせて支援したい。



のぞみの里 グループホーム

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
62 普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	地域へのしめ縄作り、ふるさと花見ツアー、お弁当を作り高原へのピクニック、開田高原へそばの食事会、夏の店めぐり、紅葉狩り、町主催の雪灯りを夕方観賞等、外出での楽しみを支援させていただいています。		今後も楽しみが持てる外出支援を継続したい。
63 電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話を自由にかけていただき、手紙での交流ができるようお手伝いさせていただいています。		家族に電話手紙での交流ができるよう支援したい。
64 家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでもどなたでも訪問していただけるよう対応しております。家族の交流でピアノ演奏や茶道を一緒にやってくださることもあります。		気軽に訪問できる環境作りに努めたい。
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない方針で支援しています。現時点では身体拘束の状況はありません。要請されている禁止項目等については学習中です。		身体拘束についての正しい理解の学習と、拘束のない介護支援をしたい。
66 鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室やグループホーム入り口にも鍵の設置はしていません。非常口は人感センサーを設置していますが、階段が急で利用者が普段使用すると危険があるので、普段は緊急時に職員なら誰でも開放できる鍵をセットしてあります。		錠はかけない支援を継続したい。

のぞみの里 グループホーム

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>いつでも所在や様子確認が出来るよう支援しています。入り口にはチャイムで知らせるセンサーを設置しています。</p>		<p>職員間の声かけや見守りで所在確認している。</p>
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>注意の必要な物品は利用者が入れないところなどに保管・管理しています。石鹼や消毒薬、食材、生ごみ等は、異食行為がみられる方の周辺に配置しないようにしたり、職員の目がいつも届くところに置いています。</p>		<p>継続して危険防止の管理をしたい。</p>
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>一人ひとりの状態に応じて、転倒については、薬の調整をしてもらった。誤薬のないよう職員二人体制で確認している。衣類のボタンをマジックテープに換える。食事形態を個々にあわせて調理配膳している。離設の事故対応に備えて毎日服装を記録しています。月1回の防災訓練を実施し、火災、災害に備えた訓練を利用者と一緒に行っている。</p>		<p>事故防止について検討しながら常時対応できるようにしたい。</p>
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>緊急時マニュアルと利用者カードを作成しており、急変時対応、事故発生時の支援ができるよう準備している。広域消防による救急法の研修を施設内で行なった。</p>		<p>定期的に訓練できるように努めたい。他の施設での事故等を他人事としないで学ぶようにします。</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>月1回の防災訓練実施により利用者と災害時の対応ができるよう検討しながら訓練している。地域の方とも訓練を1回実施している。</p>		<p>地域の消防団や近隣の方に、今後関わりを十分持っていただき訓練に参加いただけるように勧めたい。いろいろな訓練方法で実施し、災害対策に今後も取り組みたい。</p>
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	<p>家族に必要なこと連絡させていただきそれぞれのリスクについて検討支援させていただいています。(緊急時の医療対応、食事制限)</p>		<p>必要時連携が図れるよう支援したい。</p>

のぞみの里 グループホーム

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>朝と入浴前のバイタル確認を行い、勤務している看護師に健康管理の相談をしながら、常時医師との連携を図るよう支援しています。異常を発見したときは、バイタル確認をし、上司に報告すること、医療機関、家族に連絡するようにしている。</p>	<p>健康管理を行い常時対応できるよう支援する。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>個人記録に処方箋が添付しており、全職員が理解できるよう努めている。夜勤者が翌日の薬の仕分けを行い、服薬時には2人体制で服薬確認をしています。</p>	<p>継続して職員が理解して服薬支援ができるように努めたい。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>献立には野菜を多く取り入れ、食事形態も個人に合わせて、刻み食、ミキサー食、お粥、普通食等で支援しています。医師とも連携し服薬が必要な方には処方していただき、体調の確認をしています。毎日のラジオ体操やストレッチ、散歩等で軽い運動で体を動かすようにしています。</p>	<p>継続して個々の状態に合わせて医師に相談し服薬。排便コントロールが出来るように食事、運動も取り入れて支援したい。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>食後の口腔ケアを支援しています。夜間は義歯をお預かりして、洗浄しています。必要時協力歯科医院の受診に繋げて歯周病予防に努めています。</p>	<p>食後の口腔ケアや歯科受診に繋げて予防に努めたい。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>糖尿病食の方、野菜が嫌いな方の栄養バランスを検討し、食事の際に誤嚥予防も兼ねお茶の他にコップ1杯の水も用意して水分摂取をしていただいています。(医師の指示で午後からの水分を控える方には午前中に摂取できるように支援しています。)</p>	<p>食事の写真等を記録し、専門家の指導アドバイスを受けたい。</p>

のぞみの里 グループホーム

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い、うがいを励行していただいています。寝具を清潔に保てるよう10日くらいでシーツ交換等して感染予防に努めている。嘔吐、下痢の際は感染を疑い衣類を別の容器で塩素消毒しています。週2回塩素消毒にてフロア、手摺りの清掃を実施しています。インフルエンザ緊急対策を実行している。他のノロウイルス対策のマニュアルも確認しています。調理関係職員は毎月検便を実施しています。		規則正しい生活(食事・睡眠・運動等)を行ないます。季節に応じた予防のため、手洗い、うがいを励行したり、塩素消毒を引き続き施行する。
79 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食洗器を使用したり、冷蔵庫内の塩素消毒で清潔に努めている。毎日夜勤者がまな板、包丁を漂白剤につけ除菌しています。検食を所定とおり保管しています。		食材の保管場所・用具を見直し整備したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	いつでもお気軽に来所していただけるように玄関入り口に小物や生け花を飾り、和める工夫をしています。居室ドアは違う形になっており、表札も利用者、家族に作成してもらっている。		玄関の手すりの設置等を図っていきたい。
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた空間のレイアウトに努めている。利用者の作品を展示したり、ご自分のお好きなものを飾っていただいています。		希望により居室内のベット等の配置換えをしたり、利用者が望む空間作りに努めたい。
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルにて過ごせるように支援しています。テーブルは手作りや、二人用もあり用途に合わせて利用できている。利用者は3つのパターンで食事等を行っています。		引き続き、その人にあった居場所づくりに配慮していきたい。



のぞみの里 グループホーム

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者に希望に合わせて部屋作りを支援しています。テレビの持ち込み、掛け軸や写真の張り出し、たんすなどの小物入れの持込など。		利用者の希望に添えるよう相談しながら環境作りを取り組みたい。
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除の際窓を開け換気したり、必要時換気している。施設の温度湿度を確認し、配慮している。強制排気装置と自然空気孔を設けています。加湿器を配置しています。		掃除の際窓を開け換気したり、必要時換気している。施設の温度湿度を確認し継続支援したい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	クッションフロアの為転倒の際も負担が軽くなる。段差をなくし、手すりを設置して安全にできる限り自分で歩けるような環境作りをしている。		体力に応じて音楽に合わせてたりしたストレッチ体操などを工夫して行きたい。
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ラジオ体操をする場合、体力やADLに応じた運動をしています。音楽、調理、裁縫等の力を活かして活動を旺盛にしています。		個々の有する力に応じて工夫したい。
87 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダにて日光浴や景観を眺めることが可能です。洗濯物干しをしていただいたり、夏には夜間花火観賞ができました。		引き続き空間を上手に活用したい。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所に つけること)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

のぞみの里 グループホーム

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に をつけること)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている
		少しずつ増えている
		あまり増えていない
		全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が
		職員の2/3くらいが
		職員の1/3くらいが
		ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が
		家族等の2/3くらいが
		家族等の1/3くらいが
		ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

運営推進協議会を開設前(1回)以後2ヶ月に1回開催(通算7回)し、施設の運営方針やサービス内容を其の都度、委員に報告し評価を頂き利用者が安心してサービスを受けることができるよう努めています。地域交流で子育て支援の会、中学生職場体験等で地域との交流を図っています。利用者の健康管理やその方の思いに添える支援に努めています。終末期支援についてものぞみの里が支援できることを検討し、職員も認知症ケアについて日々学び取り組みたいと思います。防火体制としてスプリンクラーの設置や毎月の防火訓練等を行っています。